

新編 長門町誌 目 次

長門町長 北澤 貞利

うす紙＝特産立岩和紙特漉

発刊のことば

例 言

第一編 町の自然環境

第一章 長門町の位置と面積	3
第二章 地形と地質	4
第一節 長門町の地形	4
一 長門町周辺の地形の特徴	4
(+) 基盤岩地域の地形	4
(+) 湖成層堆積地域の地形	6
(+) 火山地域の地形	6
二 長門町の地形	7
(+) 河川	7
1 平坦地の地形	7
2 大門谷平野	8
3 山地及び台地の地形	8
4 火山地形	9
第一節 長門町の地質	10
一 地質概説	10
二 地質詳説	12
(+) 内村層	12
1 分布	12
2 岩質	12
3 内村層のよくみられる場所	12
(+) 石英閃綠岩	14
4 小諸層群	15
(+) 第四紀火成岩	19
1 平坦面溶岩	19
2 成層火山	19
3 ドーム状溶岩	20
ルートに沿った地質説明	20
四 大門石	22
五 小諸層群基底のアバット不整合	24
六 日山の押出し	23
七 長門町及び周辺各地層・岩石の説明	27
(+) 北部地域の地層・岩石	27
1 小諸層群	27
(+) 長門町南部地域の地層・岩石	32
1 二ノ橋凝灰角砾岩層	32
2 笠取峠層下部	32

笠取峰層上部	3
追分玄武岩	32
小茂ヶ谷溶岩・東沢溶岩	35
和田峠火山岩	35
大笛峰溶岩	38
安山岩	39
車山溶岩	40
ゼブラ山溶岩、殿城山溶岩、大門峠溶岩	40
追分流紋岩	40
長門溶岩	41
鶯ヶ峰溶岩	39
池ノ平溶岩	38
虫倉溶岩	37
7	
11	
14 13 12 10 8 6 5 4 3	
第二節 概況
第三章 氣象
第一節 氣候要素
一 気温	46
二 降水量	49
三 湿度	46
四 天氣	51
五 風向	52
六 霜	52
七 結氷	53
50	46
44	44

第二編 町の歴史

第一章 原始時代

第一節 旧石器時代の長門町	57
ヒトへの長いみちのり	57
第二節 黒曜石を求めて	61
遺跡の発見	61
各地の変動	58
第三節 各遺跡の特徴	65
石器の生産	65
群れる旧石器人	69
第四節 北方からの狩人	87
神子柴系文化	87
長門町と黒曜石	89
第二節 繩文時代	90
一 繩文社会の開始	90
環境の変化	90
原始農耕の存否	92
二 繩文文化への道	94
草創期の土器	94
三 繩文文化の確立	99
中道遺跡	99
四 台地文化の爛熟	113
上ノ段遺跡	113
遺跡の増加	113
大仁反遺跡	120
上ノ段遺跡	120
中道遺跡	123
大仁反遺跡	123
中道遺跡	117
六反田遺跡	107
各地との交流	112

台地文化の変容

124

低位段丘の活動

125

縄文文化の終焉

129

石敷きの家

127

第三節 弥生時代

132

稲作の伝播

132

水稻耕作の拡大

133

一 弥生文化の成立

132

二 弥生文化の発展

134

クニの発生

134

二つの文化圏

137

第二章 古代・中世

132

第一節 概説

132

第二節 古墳時代

132

第一節 玉作りの家

144

中道遺跡

144

古墳時代の玉作り

147

二 生活址の停滞と回廊性

148

前期・中期の古墳

148

上小地方の古墳

148

第三節 古代の交通

139

一 原初の東山道

150

信濃の東山道

151

大門追分と本沢

153

二 北進した準官道

153

四泊の地名

153

大門峠からの道

153

三 原初の道

150

上小地方の古墳

149

144

144

139

139

139

139

三 大門出土の蕨手刀	158	中世の有坂郷	186	有坂から長窪へ	189
第四節 古代の牧	163	二 長窪郷	191	江戸初期の長窪	193
一 小県郡の古代の牧	163	三 立岩郷	194	江戸初期の立岩	194
御牧	163	立岩郷の成立	194		
二 長門町の牧関係地名	164	四 大門郷	195		
牧寄・くらかけ	164	中世の大門郷	195	戦国・江戸初期	196
国牧	163	一 大門地区の城館跡	195		
第五節 古代の郷	166	(一) 中山城跡	198		
一 小県郡の八郷	166	(二) 堀の内居館跡	198		
小県の郷名	166	(三) 御嶽山城跡	207		
二 餘戸郷	167	(四) 長窪城跡	214		
餘戸の呼称	167	(五) 長窪城の遺構	214		
第六節 奈良・平安時代の集落	169	3 長窪城の築城	219		
遺跡・遺物	172	1 長窪城と大井氏	222		
藤ノ木遺跡	172	大井氏の繁栄	222		
片羽遺跡	174	4 長窪城と武田氏	226		
第七節 中世の庄園	175	武田氏の小県進出	226		
依田庄	175	大井貞隆	225		
第八節 中世の交通路	179				
一 谌訪への道	179				
諌訪明神社	179				
信濃侵攻	181				
二 武田氏侵攻の道	181				
第九節 中世の郷	186				
一 有坂郷	186				
第十節 中世の城館跡	186				
一 大門地区の城館跡	195				
(一) 中山城跡	198				
(二) 堀の内居館跡	198				
(三) 御嶽山城跡	207				
(四) 長窪城跡	214				
(五) 長窪城の遺構	214				
3 長窪城の築城	219				
1 長窪城と大井氏	222				
大井氏の繁栄	222				
4 長窪城と武田氏	226				
武田氏の小県進出	226				
大井貞隆	225				
武田氏と長窪	228				
第一節 中世の開発	231				
報告書の刊行	231				
水田の開発	234				

原野の開田	235
二 前田堰による開発	237
前田の水田	237
取水口と樋ノ口	237
三 円通寺堰による開発	239
円通寺堰	239
仏岩の石造宝篋印塔	240
長野県宝	240
塔の発見	240
第十二節 仏岩の石造宝篋印塔—長野県宝	241
第三章 近世	241
第一節 概説	241
第二節 統治	241
一 支配層の推移とその統治	250
(+) 戰国末期のころ	250
(+) 江戸幕府直轄領(天領)の時代	250
(+) 天領と陣屋	252
(+) 江戸時代における支配層の変遷	252
支配層の変遷	253
代官と陣屋役人	253
二 村の組織	253
(+) 村方三役	253
1 名主	256
2 組頭	260
3 百姓代	261
選出方法	261
手当の支給	262
4 ありき・定使	263
足使の手当	263
5 村役人の入札	263
入札と世襲	263
大門村の上・下組分け	266
古文書にみる入札のしかた	266
264	264
250	247
247	240
三 高札と村定	277
(+) 高札	277
(+) 村定	280
1 大門村の村定	280
2 長窪新町の村定	280
3 長窪古町の村定	283
4 立岩村の村定	284
5 自身番と火廻り	285
(+) 鉄炮改	287
四 村入用夫錢帳	289
村入用夫錢帳	289
夫錢書上帳	290
五 長窪新町の宿名変更	295
長窪と長久保	295
第三節 戸口と宗門帳	295
7 立岩の分村問題	269
分村の理由	269
往還方	273
(+) 宿役人	273
(+) 五人組	274
1 五人組制度	274
2 五人組の徹底	275
3 五人組の連帶	274
4 五人組の組分け	274
名主後役のもつれ	267
立岩の分村問題	269
分村の願い書	270
宿役人	273
問屋・年寄の給分	274
五人組の組分け	274
275	275

一 戸数と人口	戸数・人口 297	馬数 297	三 夫役	夫役制度 328	助郷勤の増加 329
二 宗門帳	資料による宗門帳 300	江戸末期の宗門帳 300	第五節 交 通	成 立 331	五街道と信濃 331
宝永の宗門帳 302	江戸末期の宗門帳 303	宿の整備 332	機能 332	大名通行と助郷制度 333	333
第四節 貢 租	江戸末期の宗門帳 300	長窪宿の成立 333	構成 333	長窪宿の位置 335	331
一 檢地	江戸末期の宗門帳 300	長窪宿の規模 338	人馬の継ぎ立て 338	宿の人口・戸数 339	331
(一) 本田畑の検地 306	新田検地帳 306	宿役の人数 340	宿立人馬 341	339	331
検地の背景 306	新田検地請書 308	休泊施設 345	宿立人馬 341	339	331
村高・田畑の反別 308	新田検地請書 310	本陣・脇本陣 345	飯盛り下女 345	339	331
(一) 新田畑の検地 308	新田検地請書 310	石合氏と問屋 345	旅籠屋の数 348	339	331
二 年貢	新田開墾 308	1 本陣・脇本陣 345	旅籠屋の数 348	339	331
(一) 村の年貢 312	年貢 312	2 旅籠屋 348	飯盛り下女 345	339	331
年貢 312	定免 312	3 峠の立場茶屋 352	旅籠屋の食事 349	339	331
(一) 年貢の割付 312	石盛 313	笠取峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
1 石盛 313	石盛十五 313	3 峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
2 年貢の割付 314	314	3 峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
年貢割付状 314	古町の石盛 314	3 峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
(一) 年貢の藏納と金納 314	314	3 峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
年貢の納期 323	年貢の藏納 323	3 峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
藏納・金納 326	年貢の藏納 323	3 峠の立場茶屋 352	立場茶屋の位置 353	339	331
四 年貢皆済目録	328	328	328	328	328
皆済目録の受領 328	328	328	328	328	328

目 次

(二) 助郷の負担と勤めと負担	不参・遅参	339	339
(三) 助郷歎願	上田領四か村半高に	362	363
1 小諸領八か村半高休と代助郷	366	367	364
2 小諸領八か村半高休と代助郷	367	368	361
四 主な諸往来	366	367	367
(一) 大名家の通行	366	367	367
1 尾州若君の遣骸通行	367	368	368
2 同日通行	369	367	367
(二) 姫宮の通行	369	367	367
1 鷹司姫君の通行	370	370	370
2 和宮の通行	371	371	371
五 脇街道	374	374	374
(一) 上田道	374	374	374
(二) 甲州道	374	374	374
(三) 大内道	377	374	374
1 文化年間の出入り	379	378	378
2 弘化年間の出入り	386	386	386
六 庶民の旅	385	385	385
(一) 江戸への旅	385	385	385
(二) 伊勢参宮と金比羅参り	386	386	386
道中記録	390	390	390
有坂新町あての制札	392	392	392
有坂新町	393	393	393
百姓召し返し令	392	392	392
和田村の定書	392	392	392
第五節 開 発	392	392	392
一 返り百姓による荒地の開発	392	392	392
二 新田開発	396	396	396
三 長三郎堰と仙石原の開発	397	397	397
開発計画	397	397	397
長三郎堰の改修	401	401	401
四 江戸時代の用水堰	403	403	403
長窪古町の用水堰	404	404	404
長窪新町の用水堰	405	405	405
大門村の用水堰	406	406	406
三地区の堰のまとめ	407	407	407
第七節 生 業	408	408	408
一 農業	408	408	408
(一) 本百姓と水呑百姓	408	408	408
(二) 江戸時代の農作物	411	408	408
(三) 稲作	412	412	412
1 稲作	412	412	412
2 稲の収穫量	414	414	414
(四) 烟作	414	414	414
(五) 養蚕	416	416	416
二 荘敷草山(種場)	416	416	416
1 荘敷山	417	417	417
江戸中期の養蚕	416	416	416
江戸末期の養蚕	417	417	417
江戸末期の養蚕	417	417	417
三 紙漉き	419	419	419
立岩紙	419	419	419
1 荘敷の日時	419	419	419
2 紙漉き仲間定書	421	421	421
四 林業	423	423	423
1 荘敷の日時	419	419	419
2 紙漉き仲間定書	421	421	421

(一) 御林と御巣鷹山	423	1 明和七年長窪宿の大火	451
御林と御巣鷹山	423	2 天保十三年長窪宿の大火	451
鷹の巣	426	3 入大門の大火	452
(二) 入会地	427	第十節 豊受大神宮とおたや	
(三) 百姓持林	428	旅屋(宿泊所)	454
松茸山	428	御初穂	455
四		寺子屋教育	459
1 大門村の松茸山	428	寺子屋師匠	459
2 長窪新町の松茸山	429	第十一節 寺子屋	
五 酒造り	430	第一節 概説	
酒造株	430	二 明治以降の変化	463
六 その他の諸商売	434	三 昭和恐慌から戦時体制へ	465
第七節 山論	437	四 戦後の復興	468
一 仙ノ倉山論	437	五 長門町の発足と発展	470
争いの発端	437	第二節 長門町旧三町村の行財政	
二 大門山山論	440	一 第二次世界大戦前	472
争いの発端	440	(一) 明治時代の行財政	472
三 大沢山山論	442	1 明治維新と長門町旧三町村	472
争いの発端	443	2 明治初年の地方自治と長門町旧三町村	477
第九節 災害	445	3 町村制施行後の地方自治と長門町旧三町村	477
一 風水害	445	4 明治初年の諸制度	493
二 凶作	448	2 大正デモクラシーのころ	495
1 天明の凶作	448	大正デモクラシーの台頭と影響	496
三 火災	450		
		1 農村の好景気	495
		2 大正デモクラシーの台頭と影響	496

目 次

(三) 昭和恐慌期から戦時体制へ	498
経済不況	498
第二次世界大戦のころ	504
二 第二次世界大戦後の行政財政	519
日本国憲法の制定	519
政治機構の変革	520
農地改革	521
地方自治法の公布	521
選挙権の拡大	522
独立した執行機関	522
三 長門町の誕生と町政の発展	522
(一) 町村合併	522
1 合併の背景	522
2 合併の実現	523
治山・治水	529
人口の推移と世帯構成の動向	530
財産区	533
(四) 集落の自治	537
長門町の政治を担つた人	538
第三節 集 落	541
一 はじめに	541
二 集落の機構と自治	542
(一) 集落自治の実例	542
三 長門町の集落	544
立岩	544
北古屋	547
(七) 古町	544
五反田	545
長久保	547
(三) 有坂	547

第四節 教育

一 学校教育	559
(一) 近代教育の胎動	559
1 上小の学校設立準備	559
2 長門町旧三町村の学校設立準備	559
(二) 近代教育の発足と拡充	560
3 昭和経済不況下の教育	563
4 戰時下の教育	565
5 国民学校の発足	565
6 戰時教育体制の強化	565
7 疎開児童	566
8 終戦直後の教育の現状	567
9 六・三制の推進と施設設備の拡充	568
10 戰時下の学徒動員	568
11 教育委員会制度の新設	569
12 統合小学校の設立	570
第四節 教育	559
(一) 入大門	555
(二) 宮ノ上・窪城	554
(三) 鷹山	556
(四) 小茂ヶ谷	553
(五) 姫木平	557
(六) 岩井	553
(七) 大沢開拓地	552
(八) 新屋	553
(九) 四泊・落合	552

<p>(一) P.T.A. の設立と統合 5</p> <p>6 旧小学校跡地の利用</p> <p>1 生活環境衛生状況の大きな進歩</p> <p>2 昭和二十三年予防接種法の公布</p> <p>3 結核予防の前進</p> <p>4 赤痢は時折集団発生</p> <p>5 簡易水道の設置</p> <p>6 環境衛生運動の展開</p> <p>7 生活環境整備の充実</p> <p>8 新憲法と生命の尊重</p> <p>9 寄生虫駆除への取り組み</p> <p>10 和田村健康管理組合立保健センターの発足</p> <p>11 長門町社会福祉協議会の設立</p> <p>12 第二次世界大戦終戦前の社会福祉</p> <p>13 日本赤十字社の活動</p> <p>14 戦後の社会福祉</p> <p>15 民生委員制度</p> <p>16 各種の福祉法が公布</p> <p>17 社会福祉法人と長門町社会福祉協議会</p> <p>18 授産所</p> <p>19 その他の福祉事業と施設</p> <p>20 国民健康保険組合</p> <p>21 国民健康保険事業の開始</p> <p>22 大川村国民健康保険組合のあゆみ</p>	<p>575 572</p> <p>575 577</p> <p>578</p> <p>578</p> <p>578</p> <p>603</p> <p>608</p> <p>603</p> <p>611 610 608</p> <p>614</p> <p>619</p> <p>619</p> <p>620</p> <p>622</p> <p>623</p> <p>623</p> <p>625</p> <p>627</p> <p>628</p>
二 社会教育	
(一) 社会教育施設と団体 576	
1 保育所 577	
(二) 公民館活動 578	
1 初期の公民館運営と活動状況 578	
2 長門町公民館への発展と事業の大略 578	
3 中央公民館の竣工とその後の活動 580	
(三) 学芸 584	
宿場の庶民文化 584	
(一) 近代文化の概観 584	
(二) 文芸 585	
1 俳諧 585	
4 絵画 592	
5 書道 594	
2 短歌 587	
3 川柳 590	
596	
(四) 学術 594	
1 明治時代 596	
(一) 明治初期の医師 596	
2 明治時代は伝染病が多発 597	
3 長久保新町に赤痢集団発生 597	
4 隔離病舎の設置 598	
599	
(五) 第五節 厚生 599	
(一) 保健と衛生 596	
1 明治時代 596	
2 明治時代は伝染病が多発 597	
3 長久保新町に赤痢集団発生 597	
4 隔離病舎の設置 598	
599	

<p>三 郡・県道の改修 644</p> <p>(イ) 四 大門道 643</p> <p>4 1 落合—窪城 643</p> <p>2 窪城—入大門間 643</p> <p>3 入大門—小茂ヶ谷 643</p> <p>4 小茂ヶ谷—大門峠 643</p> <p>5 大門追分—和田男女倉 644</p> <p>6 長久保—芦田 644</p>	<p>(イ) 一 はじめに 639</p> <p>(イ) 二 明治初期の道路 641</p> <p>(イ) 三 長久保新町—丸子町 641</p> <p>(イ) 四 古町—立科町 641</p> <p>(イ) 五 長久保新町—和田村 642</p> <p>(イ) 六 四泊 642</p>	<p>(イ) 一 交通 639</p> <p>(イ) 二 通信 640</p> <p>(イ) 三 人口減少と高齢化の波 637</p> <p>(イ) 四 老人福祉への対応 637</p>	<p>(イ) 一 年金制度の発足 635</p> <p>(イ) 二 長門町の福祉等への対応 636</p> <p>(イ) 三 人口減少と高齢化の波 636</p> <p>(イ) 四 老人福祉への対応 636</p>	<p>(イ) 一 年金制度の発足 635</p> <p>(イ) 二 長門町の福祉等への対応 636</p> <p>(イ) 三 人口減少と高齢化の波 636</p> <p>(イ) 四 老人福祉への対応 636</p>	<p>(イ) 一 はじめに 639</p> <p>(イ) 二 交通・通信 640</p>	<p>(イ) 一 はじめに 639</p> <p>(イ) 二 交通・通信 640</p>
第六節 交通・通信						
四 長門町の道路網の現状 646						
(イ) 一 國道 646						
(イ) 二 県道 646						
(イ) 三 町道 647						
(イ) 1 長久保—一丁田線 647						
(イ) 2 鷹山—姫木平線 648						
(イ) 3 農道 648						
(イ) 4 林道 648						
(イ) 5 橋梁 648						
(イ) 6 道路輸送 650						
(イ) 1 人力車 650						
(イ) 2 自転車 650						
(イ) 3 自動車 651						
(イ) 4 軽四輪貨物自動車 650						
(イ) 5 乗合馬車 650						
(イ) 6 荷車とリヤカー 651						
(イ) 7 乗合バス 653						
(イ) 8 民間バス 653						
(イ) 9 国鉄バス 654						
(イ) 10 乗用自動車 652						
(イ) 11 省営バス 653						
(イ) 12 貨物自動車 652						
(イ) 13 郵便 655						
(イ) 14 郵便のはじめ 655						
(イ) 15 郵便局の設置 655						
(イ) 16 通送方法 655						
(イ) 17 郵便線路 656						
(イ) 18 郵便法、鐵道船舶郵便法、電信法、郵便為替 656						
(イ) 19 長門局郵便物の通送 657						
(イ) 20 長門局の郵便物取り扱い量の推移 657						
(イ) 21 貯金・保険・年金・為替 658						

第七節 産業經濟

一 農業 668

(一) 明治期の農業 668

(二) 農地と食糧増産 668

(三) 農産物・換金作物 670

(四) 戰時下的農業 679

(五) 大門牧場 678

(六) 戰時下的農業 686

(七) 養蚕業 689

(八) 蘭の販売状況 690

(九) 農業諸団体の変遷推移 696

(十) 農会 697

(十一) 農業会 702

(十二) 第二次大戰後の農業 708

(十三) 農地改革と農業委員会 708

(十四) 食糧確保と農業改良 712

(十五) 農業の総合計画と技術改良 718

(十六) 農業災害と農業の発達普及 720

726

722

703

(一)	郵便貯金	658
(二)	簡易生命保険、郵便年金	658
(一)	町内各郵便局の主な沿革	659
(一)	長久保郵便局	659
(二)	長窓古町郵便局	659
(三)	大門郵便局	659
(一)	電信・電話	660
(一)	電話	660
(一)	電話のはじめ	660
(二)	長門町のようす	660
(二)	長門町の電話加入数	661
(一)	有線放送(電話)	661
(一)	長門町の有線放送	661
(一)	長門町有線放送の沿革	662
(一)	有線放送電話の変遷	662
(一)	有線放送	662
(一)	有線放送電話設備	664
(一)	新聞	664
(一)	長門町の新聞購読の種類と部数	666
(一)	時報・館報・広報の発行	666
(一)	ラジオ・テレビ	666
(一)	ラジオ	666
(一)	テレビ	666

664

8 農作物の変遷と農業の機械化 724

9 県営圃場整備事業と土地総事業 726

731

(一)	農業	668
(一)	明治期の農業	668
(一)	農地と食糧増産	668
(一)	農産物・換金作物	670
(一)	肥料と農業技術	672
(一)	戦時下的農業	679
(一)	大門牧場	678
(一)	戦時下的農業	686
(一)	養蚕業	689
(一)	蘭の販売状況	690
(一)	農業諸団体の変遷推移	696
(一)	農会	697
(一)	農業会	702
(一)	農業協同組合	698
(一)	第二次大戰後の農業	708
(一)	農地改革と農業委員会	708
(一)	食糧確保と農業改良	712
(一)	農業の総合計画と技術改良	718
(一)	農業災害と農業の発達普及	720
(一)	新農村建設事業と農業構造改善	724
(一)	農作物の変遷と農業の機械化	726
(一)	県営圃場整備事業と土地総事業	728

目 次

(+) 五 金融 明治期の金融	778	(+) 二 林業 明治期の林業	755	(+) 二 用水慣行 用 水 慣 行	739
(+) 四 観光産業 大門石	773	(+) 二 林業 大正期の林業	755	(+) 二 天災 干・冷・霜害	783
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 二 林業 森林組合の設立	745	(+) 二 天災 大雨・洪水・風害	783
(+) 一 器械製系 座縁糸	767	(+) 三 商工業 在来の商工業	750	(+) 二 天災 梅雨大雨による人命事故	783
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 鍛冶屋	750	(+) 二 天災 昭和三十一年の大洪水	783
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 水車業	751	(+) 二 天災 昭和三十四年八月大洪水	783
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 凍豆腐業	754	(+) 二 天災 昭和五十六、七、八年の連続水害	787
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 菓子屋	755	(+) 二 人災 火災	793
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 料理店・旅籠屋・貸座敷業	752	(+) 二 人災 風害	792
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 商業	757	(+) 二 人災 明治三年の長久保大火	794
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 商業	759	(+) 二 人災 明治四十二年 大門落合・四泊の大火	794
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 工業	759	(+) 二 人災 長窪古町の大火	795
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 三 商工業 工業	759	(+) 二 人災 滝ノ沢の大火	798
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 九 第九節 入会地の紛争	799	(+) 二 人災 仙ノ倉山入会論	799
(+) 一 器械製系 立岩紙	763	(+) 九 第九節 事件	799	(+) 二 人災 大沢山入会論	799
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 大門山事件	804
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 水利の紛争	810
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 大石堰の係争	812
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 大正から昭和初期の金融	780
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 戰後の金融	780
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 第八節 災 害	783
(+) 一 器械製系 立岩紙	763			(+) 二 人災 大正から昭和初期の金融	779

第十節 戦役

一 はじめに	815
二 徵兵と現役入隊	815
三 明治初年から昭和にかけた戦役	817
日清戦役	817
第一次世界大戦	818
シベリア出兵	818
第二次世界大戦	819
四 戰役と町民のかかわり合い	821
五 町に關係深い軍事	822
郷土部隊松本五十連隊	822
在郷軍人分会	823
戦没者	824
四 遺族会	825
六 戰後に關係する行事	824
出征兵士の見送り	825
戦没者の葬儀	826
忠魂碑、英靈殿の建立	828
第十一節 移民	830
一 はじめに	830
二 大正期から昭和初期ごろの旧三町村の移民	831
フィリピン(比島)移民	831
ブラジル移民	832
三 満州移民	832
国策としての満州の重視	832

経済更生運動と満州分村計画

832

大門村農村経済更生特別助成村の指定

833

満州分村移民計画の樹立

833

開拓団幹部と入植地決定

836

移民の経過

834

移民の準備

834

1 計画の推進

833

2 移民の準備

834

移民割当数の送り出しむずかしくなる

837

米穀増産特別班の派遣

838

開拓団建設が進む

838

1 団の建設状況

838

2 十六年七月七日 集落分散地区決定

839

2 戰線の拡大と移民の目的

840

3 羅圈河開拓団長の交替

841

4 藤田操団長の事故死

841

5 高柳指導員が第二代団長に就任

841

6 昭和十八年の土地配分と米穀増産隊

842

7 昭和二十年、団の經營を街村制に移行

843

8 開拓団の終末

843

9 終戦当時の団の状況

843

10 離団から悲惨な逃避行・越冬

844

11 二十年八月九日夜十時

844

12 引揚げと帰郷

845

13 第九次羅圈河開拓団員の実態

845

14 自立と更生

847

第十二節 宗教

一 明治維新と社

849

(一) 社格の決定

849

(二) 郷社・村社・無格社の位置・祭神・祭典・行事

等

850

1 大門地区

863

3 古町地区

862

二 寺堂の建立

1 大門地区

867 863 862 857 850

2 長久保地区

865 854

三 宗教団体

1 創価学会

871

2 天理教

871

3 立正佼成会

871

4 靈友会

872

第十三節 文化財

一 有形文化財

873

(一) 県指定文化財

873

1 長安寺経蔵

875

2 大門稲荷神社の本殿・高辻・鳥居の額

876

3 観音寺木造地蔵菩薩立像

876

4 西蓮寺本尊阿弥陀三尊立像

876

5 長窪宿旧本陣石合家住宅

876

6 長窪宿旧本陣石合家文書と高札

877

竹内家住宅	877
竹内家笠取峠立場図版木と宿場札	878
松尾神社本殿	879
常福寺涅槃像掛軸	879
清水家文書、武田信玄朱印状・依田記	880
その他の文化財	880
1 西蓮寺境内の天神社本殿	881
2 勾玉原出土祭祀遺物	881
3 大山獅子	882
4 長久保甚句	882
5 有坂獅子	882
6 史跡	886
7 長窪城跡	886
8 中山道一里塚跡	886
9 通夢道人遺跡	886
10 天然記念物	887
11 チヨウゲンボウ繁殖地	887
12 ツキヌキソウ	888

880

二 無形文化財

(一) 記念物

886

(二) 記念物

886

(三) 記念物

886

三 記念物

(一) 記念物

886

(二) 記念物

886

(三) 記念物

886

873

873

887

888

886

886

887

886

886

886

第三編 町の民俗

	第一章 概 説	891	
	第二章 衣・食・住	892	
	第一節 住居	892	
一 屋敷	892		
二 屋根	893	二 家の配置	893
三 屋根	893	四 間取り	893
五 別棟、ためとながしなど	895	五 別棟、ためとながしなど	895
六 照明	895	六 照明	895
	第二節 衣	896	
一 親ゆづりの着物	896	一 親ゆづりの着物	896
二 よそゆき着とふだん着	896	二 よそゆき着とふだん着	896
三 じゅばんからシャツへ	897	三 じゅばんからシャツへ	897
四 ふだん着	897	四 ふだん着	897
五 はたらき着	897	五 はたらき着	897
六 はきもの・雨具・雪具	897	六 はきもの・雨具・雪具	897
	第三節 食生活	899	
一 米と粉もの	899	一 山菜と副食	899
二 山菜と副食	900	二 山菜と副食	900
三 晴れの食	900	三 晴れの食	900
四 豆とこうじの加工食品	901	四 豆とこうじの加工食品	901
五 野菜の貯蔵	901	五 野菜の貯蔵	901
六 潰物・なりずもく	901	六 潰物・なりずもく	901
	902	902	902

	第一節 田作り	902	
一 一種畠とり	902	二 なえまづくり	902
三 田ごしらえ	903	三 田ごしらえ	903
五 刈り敷き刈り	904	四 代ふみ	903
七 田の草取り	905	六 田植え	904
九 稲こき	905	八 稲刈り	905
十 するす	906	十 するす	906
	第二節 畑作り	907	
一 耕作具	907	二 焼き畑	907
三 常畑の作物	908	三 常畑の作物	908
第五節 家畜	911	第四節 労働慣行	911
一 馬	913	一 村役	911
二 入会山・共有山と労役	911	二 入会山・共有山と労役	911
三 道路の労役	911	三 道路の労役	911
四 用水と労役	912	四 用水と労役	912
五 畜牛	913	五 畜牛	913
六 乳牛	913	六 乳牛	913
七 にわとり	914	七 にわとり	914
	913	911	911
	913	909	909
	912	908	908
	912	909	909
	913	907	907
	913	902	902

第三章 生産・生業

目 次

	七 兔・アンゴラ兎	914
第六節 林業	一 木こり	915
三 薪切り	二 炭焼き	915
第七節 狩獵と漁撈	四 林産物の運搬	916
第四章 年中行事	一 狩獵	917
	二 漁撈	918
第一節 正月の行事	三 松むかえ	919
	二 餅つき	919
	三 松飾り・しめ飾り・歳だな	919
	四 節季勘定	920
	五 二年参り	920
	六 年とり	921
	七 元旦	922
	八 仕事はじめ	922
	九 カニの年とり	922
	十 七草	923
	十一 くらびらき	923
	十二 ものづくり	923
	十三 鳥追い	923
	十四 おたや様の祭り	924
	十五 ドンドン焼き	924
第二節 春の行事	十六 成人式	925
	十七 山の神	925
	十八 二十日正月	925
	十九 みそか正月	925
	二十 一節分	926
	二 初午	927
	三 道祖神	927
	四 やしょうま	928
	五 金比羅様	928
	六 天神講	929
	七 苗代祭り	929
	八 春彼岸	929
	九 ほたる取り	930
	十 八十八夜	929
第三節 夏の行事	一 菖蒲湯	930
	二 山の口	930
	三 田植え	931
	四 農休み	931
	五 虫送り	932
	六 祇園祭り	932
	七 七夕	932
	八 土用	933
	九 風祭り	935
	十 運動会	935
	一 かかし祭り	936
	二 山の口	937
	三 大師講	937
	四 大山の神講	937
	五 六 エビス講	937
	七 十 冬至	937
	八 三 路傍の信仰	938
	九 五 家の神	938
	十 一 崇敬者、信徒の講	938
第五章 民間信仰	第一節 ムラの神仏	938
	二 生産の神々	938
	三 村落の仏教	941
	四 一 産土神・氏神	942
	五 三 路傍の信仰	943
	六 五 家の神	946
	七 六 ひな祭り	928
	八 八十八夜	929
	九 春彼岸	929
	十 ひな祭り	928

二 おとう仲間	948	三 その他の講	950
第六章 人の一生		
第一節 誕生と成育		
一 出産	951	二 成育	953
第二節 婚姻		
一 婚礼	955	二 婚育	951
第三節 葬送		
一 死者のあつかい	959		
二 葬式	961	三 法要	962
第七章 民俗知識		
第一節 俗信		
一 禁忌	964	二 呪術と病気	965
三 祈願と礼参り	965		
第二節 民間療法		
一 イチニンヤク	969		
二 体をもとにした物の測り方	970		
三 農事の目安	971		
第八章 芸能とあそび		
第一節 芸能のかずかず		
一 三頭獅子	973	二 子供獅子	973
三 おたやの山車	976		
	973	972	
	969	966	
	964	964	
	959	955	
	955	951	
	951	951	

四 消え去った芸能	978
第九章 民話と伝説
第一節 昔話
一 遊びのいろいろ	982
二 昔のあそびのみなおし	984
第三節 伝説
一 各地の伝説	988
第二節 伝説
一 人間・人生など	996
二 家族関係など	997
三 心構え	997
五 愛情・交際など	997
六 学問・趣味など	1000
四 言葉	999
七 健康	998
	1001
	995
	987
	985
	985
	982

付録

年表

執筆分担

1007

新編長門町誌刊行会役員
新編長門町誌編纂委員会関係

1026

あとがき

1027